

第9回 勘定科目の判別 勘定科目はなぜ使い分けるのか

経理実務講座 初級編



今日お話しすること

- **経理業務の全体像**
- **勘定科目はなぜ使い分けるのか**

経理業務の全体像

経理業務の分類

日次業務

▶ 毎日やる定型業務



- ✓ 現金・預金の管理
- ✓ 経費精算
- ✓ 領収書等管理
- ✓ 請求書・領収書の作成
- ✓ 伝票入力
- 勤怠管理・有給休暇管理

月次業務

▶ 毎月やる定型業務



- 給与計算・残業代計算
- 社会保険料等の徴収・納付
- ✓ 所得税・住民税の徴収・納付
- ✓ 売掛金・買掛金等の管理
- ✓ 月次決算

年次業務

▶ 毎年やる定型業務



- 社会保険料・労働保険料の更新
- 年末調整
- ✓ 償却資産税の申告
- ✓ 固定資産
- ✓ 年次決算
- ✓ 税務申告・中間納付
- 株主総会

都度業務

▶ 発生の都度実施する業務



- 賞与の支払い
- 従業員の採用、退職手続き
- ✓ 税務調査

一人前の経理パーソンの要件

要件① 会社のビジネスに対する理解



一人前の経理パーソンの要件

要件② 会計処理における判断力



一人前の経理パーソンの要件

要件③ セルフメンテナンス能力



勘定科目は なぜ使い分けるのか

理由① 法令を遵守するため

例：飲食店で食事をした場合



接待交際費

税務上、一部が損金にならない

その他
(会議費)

税務上、損金になる

理由② 経営への役立ちのため

例：費用科目

雑費：100		給与：50
		広告宣伝費：20
		旅費交通費：20
		接待交際費：10

正規の簿記の原則

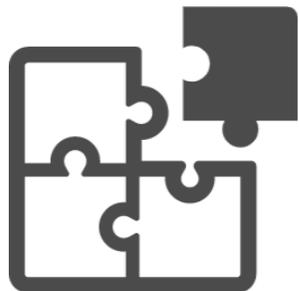
企業会計原則

第一 一般原則

二 正規の簿記の原則

企業会計は、すべての取引につき、正規の簿記の原則に従って、正確な会計帳簿を作成しなければならない。

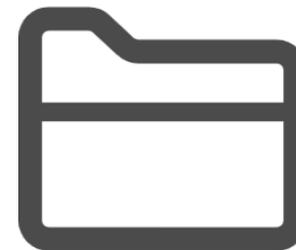
網羅性



検証可能性



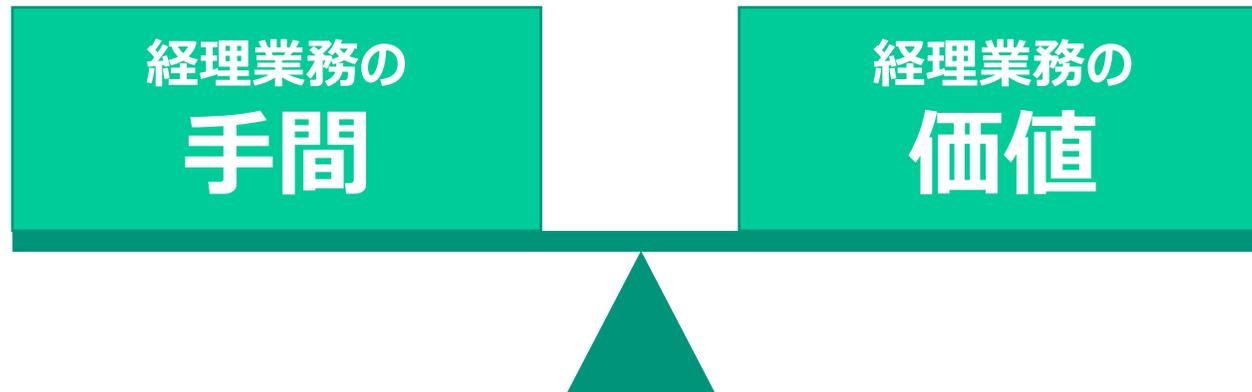
秩序性



重要性の原則

企業会計原則 注解 1

企業会計は、定められた会計処理の方法に従って正確な計算を行うべきものであるが、企業会計が目的とするところは、企業の財務内容を明らかにし、企業の状況に関する利害関係者の判断を誤らせないようにすることにあるから、**本来の厳密な会計処理によらないで他の簡便な方法によることも正規の簿記の原則に従った処理として認められる。**



勘定科目の選び方

会社のルール・社会のルール

